

BRAHMS

SÉRIE DE MUSIQUE DE CHAMBRE NAGAKO MATANO **MOMENTS MUSICAUX no.3**

*Sonate pour piano et violon op.78 / Sonate pour piano et violoncelle op.38 / Trio pour piano, violon et violoncelle op.8*

Nagako MATANO : Piano / George BABUADZE : Violon / Noboru KAMIMURA : Violoncelle

俣野修子室内楽シリーズ

楽興の時

第3回

BRAHMS

2011. 11/6 (日)

5:00 p.m.

(4:30p.m. 開場)

イシハラホール地下鉄四つ橋線「肥後橋」5B出口

■助成 財団法人日本室内楽振興財団

■前売 ローソンチケット 0570-084-005 (Lコード:56425) イシハラホール 06-6444-5875 ■全自由席 / 一般 ¥4000 / 学生 ¥2500 小学生よりご入場いただけます / ペアチケット ¥7000 マネジメントのお取り扱い

■マネジメント・お問い合わせ ●M大阪アーテリスト協会 tel:06-6135-0503 (チケット専用ダイヤル:050-5510-9615) ■後援 京都市立芸術大学 / (株)日本演奏連盟 / (社)全日本ピアノ指導者協会  
音楽学部

俣野修子 室内楽シリーズ

# 楽興の時 第3回 BRAHMS

2011. 11/6 (H) 5:00 p.m.

イシハラホール

BRAHMS

ピアノとヴァイオリンのためのソナタ no.1 ト長調 op.78 「雨の歌」

ピアノとチェロのためのソナタ no.1 ホ短調 op.38

ピアノ・ヴァイオリン・チェロのための三重奏曲 no.1 口長調 op.8

■ 俣野修子 Nagako MATANO : Piano

ジュネーヴ音楽院 演奏家課程 (post-graduate course) 修了。  
名ピアノリスト D.リハッティの高弟であり、音楽作品に対する深い  
解釈に定評のあったL.ヒルトブランド教授に師事し、大きな影響を  
受ける。

ジュネーヴ音楽院在学中より、スイス・フランスでのリサイタル等、  
演奏活動を始め、修了時には、一等賞並びにハレレフスキー記念  
フィリップペティ特別賞を受賞。

1985年、大阪にてデビューリサイタル開催。以後、東京、大阪で  
リサイタル、日本各地でジョイントリサイタルを行う他、奈良場恒美氏、  
岸邊百々雄氏、上村昇氏、テレマン室内管弦楽団、モーツァルト室  
内管弦楽団、スロバキア四重奏団、M・ノステイツ弦楽四重奏団、  
ヘルリン弦楽四重奏団等、日本内外の音楽家と数多く共演し、関東・  
関西を中心に、ソロと室内楽の分野で意欲的な演奏活動を行って  
いる。中でも、2003～2009年の「俣野修子 モーツァルトとシュー  
ベルトのタペ」シリーズでは、美しい響きと豊かなイマジネーションに  
彩られたモーツァルトや深い人間性の滲み出たシューベルトが、好  
評を博した。2009年からは室内楽シリーズ「楽興の時」をスタート。  
現在、京都市立芸術大学において、後進の指導にあたっている。



## SÉRIE DE MUSIQUE DE CHAMBRE NAGAKO MATANO MOMENTS MUSICAUX no.3 BRAHMS

■ ギオルギ・バブアゼ



61年グルジア国トビリジ生まれ。国立トビリジ音楽院にてヴァイ  
オリンをシウカシチュヴィリ教授に師事。また在学中よりモスクワに  
てボロディン弦楽四重奏団のペルリンスキ氏に弦法をオディセイ・  
学ぶ。卒業後は研究科を経て大学院に進み、指揮法をオディセイ・  
ディムトリアディン氏に師事。同時に88年より2年間ハトウミ市交  
響楽団の指揮者を務める。90年よりクルジャ音楽協会の室内管  
弦楽団の芸術監督および首席指揮者を務め、フランス、ドイツへ  
演奏旅行。93年にイタリアへ渡りオーケストラのヴァイオリン奏  
者として諸都市で演奏する傍ら、グルジア弦楽四重奏団のメンバ  
ーとしても活躍。96年9月大阪シンフォニー交響楽団のコンサ  
ートマスターとして来日。98年トビリジ弦楽四重奏団を結成。01  
年10月関西フィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターに  
就任。02年4月より京都市立芸術大学ヴァイオリン専攻非常勤  
講師も務める。04年7月グルジアの保養地ボルジョミで開催され  
た国際音楽祭に参加、グルジア国立室内合奏団を指揮し好評を  
得る。12月には同合奏団を率いてドイツ演奏旅行を成功させる。  
06年1月にはグルジア国立歌劇場の客演指揮者に就任し、ます  
ますの活躍が期待されている。

■ 上村昇 Noboru KAMMURA : Violoncelle



京都市立芸術大学卒業、黒沼俊夫氏に師事。日本音楽コン  
クール第1位、海外派遣コンクール松下賞、文化放送音楽賞、京  
都市芸術新人賞、京都府文化賞新人賞及び功労賞、飛騨古川  
音楽大賞奨励賞、ABC国際音楽賞等受賞。ジュリアード音楽院  
のH・シャピロ教授の夏期講習に3回参加し薫陶を受ける。1979  
年カスハール・カサド国際チェロコンクール優勝の後、ジュネーヴ  
にて巨匠ピエール・フルニエの元で研鑽を積み傍らヨーロッパ各  
地で演奏活動を行う。ノイマン指揮チェコ・フィルハーモニー、ブ  
ラハ交響楽団、ヴィーン・カンマーフィル等と共演。又NHK交響  
楽団初め国内の主要オーケストラからソリストとして招かれ共演  
している。各地でのリサイタルの他、室内楽の分野においても、  
国内外のアーティストからの信頼も厚く、1998年に結成したアル  
ティ弦楽四重奏団は京都、横浜、東京、松本等で演奏活動を行い、  
2008年には関西音楽クリティッククラブ賞を受賞する等、高い評  
価を得ている。「BACH無伴奏チェロ組曲」、チェロ小品集「ノー  
タイトル」、「ブラームス/チェロソナタ」などのCDがフォンテック  
よりリリースされている。現在京都市立芸術大学教授、桐朋学園  
大学特任教授。